

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年12月7日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.71】

松崎氏息子の社長就任はJR革マル内の利権争いが理由？！

東労組元会長・松崎明氏は、「週刊現代裁判」における以下の自身の証言（2009年1月26日）によると、息子のA氏がJR総連関連会社「さつき企画」の取締役就任には賛成したが、社長就任には反対だったらしい。その理由に、A氏が有能な人物であること、松崎氏の元は同士であった新潟のM氏が社長を狙っていたことを挙げている。

(被告代理人)(注:息子の取締役就任に)なぜ賛成したんですか。(松崎)それは、彼がいろいろ歌を作ったりしてあちこちの組合と関係を持っていましたから、当時、人選をいろいろ考えていたときに、多くの皆さんがA君にやってもらったらどうかと、そういうことで、あの下に音楽事務所を持っていましたから、しょっちゅうそこで出入りをしていて、そういう関係からそのような推薦を受けたんです。(代理人)あの下というのは、どこの下ですか。(松崎)目黒さつき会館ですね。1階ですね。(代理人)何階に何があるんですか。(松崎)現在は、2階に福祉事業協会と国際労働総研、総合研究所があり、それは3階ですね、2階はJR総連事務所です。その下です。(代理人)しかし、組合の歌を作るとか何とかいうようなことであれば、委託して作ってもらえば当然それでいいわけで、やっぱり唯一の株主の息子さんが取締役になるよということは、組織を私物化してるんじゃないのかという批判が当然出てくるだろうことは予測してましたよね。(松崎)はい。(代理人)それにもかかわらず、あえて取締役に就任することに賛成したのはどうしてですか。(松崎)認めました。(代理人)だからどうしてなのでしょう。(松崎)それは彼が有能な人物だからです。(代理人)代表取締役にになったのは、これも賛成した。(松崎)賛成しません。(代理人)有能だったら賛成してもいいんじゃないの。(松崎)私は、とかくのつまらない罵詈雑言、ためにする批判、そういうものが起こるであろうことは予知しておりましたから、息子にもその意思は伝えてありますし、息子もよく分かっておりましたが、別の意図が働いたんです。(代理人)何ですか。(松崎)それは先ほど言いましたように、新潟から来ていたMというのが、Aを執拗に社長に推したからです。(代理人)そうするとそうなっちゃうんですか。(松崎)そうして、みんなが反対を、Aになることについては反対ですが、これは意図が明々白々だったわけです。Mは、私がノーと言っている息子を社長に推せば、必ず推した自分のところに社長のいすが回ってくる、そういう姑息な意思であることは皆さんが見抜いていましたから、したがって、消去法でいけばMのほかには誰かということになって、Mです、それを営業部長のままにして、Aが社長に推薦され、それはやむを得ないということになったのだと思います。最終的に私も承知をいたしました。(代理人)その時点では、他の方との考慮もあったかも知れないけれども、Aさんが最も代表取締役に適任であると考えてその就任に賛成したということですか。(松崎)能力からみてそのように思いました。消去法です。

わけのわからない利権争い、一般組合員はどう思う？！

松崎氏は「われらのインター（Vol.25、2009年9月15日発行）」でも、M氏を「分裂屋（ゼニマツ＝ガメ松ことMら）」、「動労新潟・元革マル活動家」とコケおろしている。なお、M氏は革マル派から機関紙「解放」で、九州労大量脱退事件を主導したとして、秘密党员名を明かされている人物（No.13参照）。弁明の真偽はわからないが、いずれにせよ、JR総連や東労組の一般組合員にはまったくわからない、JR革マル派の身内の話ばかりだ。